

「狭い門をくぐって」

マタイによる福音書 7:13-23
ヤコブの手紙 3:17-18

2025年8月24日
野村 友美 師

<狭い門から入る>

「狭い門から入りなさい。」

この言葉は、聖書の中でもよく知られている言葉の一つだと思います。聖書の話じゃなくても、たとえばレベルが高くて入るのが難しい学校とか職業のことを、一般的に「狭き門」と呼びますよね。狭くて小さい門は確かに何となく入りにくくて、「関係者以外お断り」みたいな雰囲気もあるような気がします。

反対に、広くて大きな門は「ようこそ！」とされているようで、安心して入りやすい感じがするのではないのでしょうか。細い路地は面白そうだけど、うかつに入っていったら「こら！」と起こられそうで心配になりますし、広い道を歩いたほうが迷子にもなりにくくて安心できそうです。

車を運転するなら断然、細い道よりは広々とした道を進んでいきたいと思います。そういう人間の心理をよく知っておられたからこそ、イエス様はこの狭い門と広い門、細い道と広い道のたとえ話をなさったんでしょう。

滅びに通じる門は広くて、その道も広々としていて、そこから入る人は多い。反対に、命に通じる門は何と狭くて、道も細くて、見つける人が少ないことか。すごくイメージしやすい喩えで、きっと聞いていた人たちも「うんうん」と頷いたでしょうね。

本当に、良い生き方を選ぶということは、狭くて入りにくい門を通るのに似ています。 厳しくて

大変そうで、なかなか踏み込む勇気が出ないけれど、その大変な道を乗り越えることで、人は大きく成長するのでしょう。

周りに流される生き方は、広い門や広々とした道のように、簡単に入れて歩きやすいです。でもそうやって楽な道ばかりを選んでいたら、いつの間にか考える力を失って、何か困難なことに会ったと、乗り越えられずに潰れてしまいます。

ただ、イエス様はこの狭い門と広い門、細い道と広々とした道を、それぞれ「良い生き方と悪い生き方」に通じるものだとは言っておられません。入りにくい狭い門、歩きにくい細い道は、あなたたちを生かす命に通じている。入りやすい広い門、歩きやすくて広々とした道は、あなたたちを滅びに向かわせるものだ。そう言って、イエス様はここから「天の国の命」について話しておられるんです。

<誰について行くのか>

「あなたがたは地の塩、世の光である」という宣言から始まって、イエス様はここまで、人間が本当の意味で人間らしく生きるための教えを語ってこられました。自分自身や、他の誰かや何かではなくて、創り主である神様を「神」として、神様に信頼して従うように。

神様が創られたこの世界を、そして一緒に生きるすべての人を、尊重して大切に扱うように。

神様を愛し、人を愛して生きる「幸い」を、追い求めて生きるように。

わかりやすいたとえ話を交えながら、その方法をイエス様は細やかに教えています。

怒りや憎しみに、振り回されないでいなさい。

自分の欲望のために、他人を利用してはいけない。

人に認められるために、祈りや施しや断食を見せびらかすな。

あれこれ思い悩まないで、何よりもまず神の国と神の義を求めなさい。

これを全部、完璧に実践しようとするなら、まさに狭き門、細い道でしょう。それでも、「無理しないで、できたらいいよ」とは、イエス様はおっしゃいません。それどころか「狭い門から入りなさい」と、きっぱり言い渡されるんです。

「命に通じる門はなんと狭く、その道も細いとか」なんて言われるぐらいですから、それがどんなに難しくて大変なことかは、イエス様だってよくわかっておられました。私たちが一人でその狭い門を通して、細い道を歩いて、天の国の命にたどり着くのは、とてもじゃないけど無理でしょう。

「それを見出す者は少ない」と、イエス様も認めておられますから。少ないどころか、ほとんどいないと言っていいかもしれません。だからイエス様はここから、「一緒に行こう、わたしについて来なさい」という話をなさっているんです。

天の国の命に通じる狭い門、細い道を、一人で通っていくのは難しい。だからついて行く相手を間違えないように、イエス様はまず始めに「偽預言者」を例にあげて教えておられます。偽の預言者、つまり預言者のふりをしている人たちに気をつけなさい、と。

神様の言葉を預かって伝える預言者は、いつの時代にも人々から尊敬と畏れを向けられる存在でした。ただし、王様や貴族や宗教指導者たちにとって都合が悪いことを預言すれば、捕らえられて罰を受けたり、命を狙われる危険もありました。

それでも、というか、だからこそ預言者たちは、

イスラエルの人々にとって特別な影響力を持つ存在だったのでしょう。他人に影響を与えて、その心を支配する。そういう存在とか立場に憧れる人は、いつの時代もどこにでもいるものです。

旧約聖書の申命記やエレミヤ書、エゼキエル書といった文書にも、偽預言者がいたことや、彼らに対する注意が語られています。偽預言者たちは、奇蹟だと思えるようなことをして見せて人々を信用させたり、耳触りが良いだけの言葉や、権力者に都合がいい言葉を、神様の言葉として伝えました。

もちろん、そのとおりにならなかったら、すぐに偽預言者だとわかってしまいます。でも「何月何日にこういう事が起きる」なんていう具体的な預言でもなければ、彼らの言葉が本当かどうかを判断するのは、なかなか難しかったでしょう。

それでなくても、人は自分にとって厳しい言葉よりは、都合がいい甘い言葉の方を信じたくなるものです。しかも偽預言者は「羊の皮を被って」、つまり安心させるような態度や外見を作って、人を支配したい欲求を隠して、上手にふるまいました。

「あなたたちが正しい」とか「大丈夫、災いは起こらない」なんていう甘い言葉で安心させて、神様の思いとは違う方向に進ませてしまう人たち。

自己満足とか支配欲のために人をだまして利用する、そんな偽預言者のような人たちについて行かないように気をつけなさい。そうイエス様は警告しておられるんです。

とはいえ、目の前の相手が本当はどんな人かなんて、そう簡単には見抜けないでしょう。だから「どんな実を結ぶかで、あなたたちがつ

いて行く相手を見分けなさい」とイエス様はその秘訣を教えています。良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。

このイエス様の言葉、私たちの心にけっこうグサリと刺さるんじゃないでしょうか。「実」、つまり生き方や行動の結果が、その人の本質を表しているというんですから。

ただ今日の言葉の少し前に、イエス様は「人を裁くな」「他人の目の中のおが屑よりも先に、自分の目の中の丸太を取り除きなさい」と言っておられます。だから、この「どんな実を結ぶか」というのはどうやら、人から認められるような立派な生き方や素晴らしい行いをしているかどうか、ということではなさそうです。

じゃあイエス様が言われる「良い実」って、具体的にはどういうことなんでしょう。信仰者らしい、敬虔な生き方やふるまいをしているか、ということでしょうか？そうかもしれません。

ただ、いつでも「主よ、主よ」とイエス様を引き合いに出して、いかにもイエス様の弟子っぽいことを言ったり行ったりすること、というわけでもなさそうです。

イエス様について行っているつもりで、神様に従っているつもりで、でも実際は自分勝手にふるまっている。そういう人々のことも、イエス様は続けて警告なさっています。

本当に、「良い実」とはいったい何なのでしょう。

狭い門をくぐって、細い道を歩いて、天の国の命にたどり着くために、私たちはいったい何を目印にして、誰について行ったらいいんでしょうか。

<狭い門をくぐって>

天の国に入るのは、わたしの天の父の御心を行

う者だけだ。そうイエス様は、今日の言葉の中で言っておられます。

どうやらイエス様が言っておられる「良い実を結ぶ」というのは、「神様の御心を行う」ということのようにです。これもまた、わかるようでよくわかりませんよね。

そもそも、神様の御心が人間にわかるものなんでしょうか？人間同士だって、相手が何を考えているかなんてよくわかりません。わかったつもりでいると失敗するのが、人間関係の難しいところでしょう。まして神様が何を考えておられるかなんて、わからなくて当たり前です。

そう、私たち人間にはわからないんです。わからないからこそ「求めなさい」と、イエス様は今日の話の直前に教えておられます。

求めて、探して、門を叩いて、天の国を生きるために必要なものを、神様に祈り願いなさい。そう力強く勧めた後に、イエス様は今日の話をなさっているんです。

良い実を結ぶ人。

それは天の国を生きる希望を抱いて、どんな時にも神様の御心を求めて、探して、門を叩いて、神様に祈り願いながら進む人のことです。

旧約聖書の格言集である箴言は、神様からのd s知恵が人を生かすのだと、何回も繰り返し語っています。

「心を尽くして主に信頼し、
自分の分別には頼らず、
常に主を覚えてあなたの道を歩け。
そうすれば、主はあなたの道筋を
まっすぐにしてください。」

(箴言 3:5-6)

「知恵は、それをつかむ人にとって命の木。

知恵を保つ人は幸いである。」

(箴言 3:18、聖書協会共同訳)

さらに面白いことに、創世記2章が描くエデンの園の中央には、「命の木」と「善悪を知る知識の木」が置かれています。

つまり神様の知恵は、私たち人間を人間らしく生かす命につながっていると、この世界の成り立ちを語る物語に描かれているんです。

だから新約聖書のヤコブの手紙は、まさにその中央にこんな言葉を置いています。

「上から出た知恵は、何よりもまず、

純真で、更に、温和で、優しく、

従順なもの です。

憐れみと良い実に満ちています。

偏見はなく、偽善的でもありません。

義の実は、平和を実現する人たちに

よって、平和のうちに蒔かれるのです。」

(ヤコブ 3:17-18)

神様からの知恵を求めて、神様の御心に従って生きようとするなら、私たちはどうしたって狭い門をくぐって、細い道に行くことになるでしょう。ヤコブの手紙が言うような、純真で温和で優しく従順で、憐れみと良い実で満ちて、偏見はなく偽善的でもない、平和を実現する生き方へと導かれる。それは、聖人君子じゃない私たちにはまさに狭すぎる門、細すぎる道です。でも私たちは一人ぼっちで狭い門をくぐって、細い道を進んで、天の国を目指して導かれるわけじゃありません。

誰よりも良い実を結ぶ御方が、「一緒に行こう、わたしについて来なさい」と一人ひとりを招いて

おられます。

インマヌエル、私たちと共におられる神と、マタイの福音書が宣言している人。神様の言葉が肉体をもって私たちの間に宿られた、とヨハネの福音書が証言している人。

誰よりも神様の御心をご存知で、神様の御心に従って生きて、死なれて、復活なされたイエス・キリストという御方が、私たちがついて行くべき「良い実を結ぶ人」です。

私たちには狭すぎる門、私たちには細すぎる道を、イエス様が私たちの前に立って、切り開いてくださいます。

「わたしはぶどうの木、

あなたがたはその枝である」

(ヨハネ 15:5)

と弟子たちに言われた

イエス様は、ついて行く私たちの歩みのその先にも、実を結ばせてくださるでしょう。どんな実が結ばれるのか、その実が甘いのか酸っぱいかは、まだ誰にもわかりません。

イエス様が結ばせてくださる実に期待して、天の国の命を生きるために。

今日も私たちは、神様からの知恵を祈り求めて、イエス様の言葉と生き方に従って、狭い門をくぐって細い道を歩いていきましょう。

神様を愛し、人を愛して生きる「幸い」が、一人ひとりの人生に豊かに実りますように。

お祈りいたします。

祈りいたします。